

〈報道関係のみなさま〉

## 特集 少子化と向き合う

### 「月刊 Journalism」4月号発売!

株式会社朝日新聞社（渡辺雅隆社長）は4月10日、「月刊 Journalism」の4月号を発行しました。特集は「少子化と向き合う～人口減少をどう捉えたらいいのか」です。日本の出生数は予測より早く昨年、90万人を割りました。社会のありようが変わらざるを得ない状況を様々な視点から考えてみました。

巻頭は広井良典・京都大学こころの未来研究センター教授です。AIを活用して未来を予測し、都市集中より地方分散型の社会が望ましいとして持続可能な福祉社会を提唱しています。コラムニストの河崎環さんは少子化を女性の問題にするおかしさを追及。日本総研の村上芽さんは国の施策を外国とも比較しながら詳細に点検し、博報堂ソロもんラボ・リーダーの荒川和久さんは「ソロで生きる力」＝「人とつながる力」の重要性を強調しています。ジャーナリストの李敦熙さんは少子化が急速に進む韓国、在仏ライターの高崎順子さんは出生率が回復したフランスについて、それぞれ報告しています。また、落合恵美子・京都大学教授は報道にあたってのポイントを指摘、「#なんでないのプロジェクト」代表の福田和子さんは「出産奨励」の前に考えるべきこと、フリーライターの角田奈穂子さんはTVドラマに見る家族像の変遷について論考を寄せています。

特集以外では、朝日新聞社で開かれた勉強会「フェイクニュース」とファクトチェック」の様態を採録したほか、フォトジャーナリストの渡辺幹夫さんが東日本大震災から9年を迎えた福島をルポしています。

「月刊 Journalism」は2008年10月創刊。「怒り」（2019年12月号）、「2020 時代を読み解く」（2020年1月号）、「原発と民主社会」（2月号）、「どうする教育」（3月号）など、さまざまな社会問題にジャーナリズムの視点から切り込んでいます。

定価は本体741円＋税。年間購読料は8965円（税・送料込み）です。全国の書店、ネット書店、ASA（朝日新聞販売所）で注文によってお求めいただけます。



〈お問い合わせ〉  
朝日新聞社 ジャーナリスト学校  
TEL 03-3545-0131(代表)